

プロポーザル評価基準書

五泉市内部情報系システム導入作業及びシステム提供業務

令和 6 年 1 月

五泉市

本プロポーザル評価基準書は「五泉市内部情報系システム導入作業及びシステム提供業務」に係る調達の評価基準について示したものであり、評価手続き等は次のとおりである。

なお、参加のあった事業者が1事業者であっても審査を実施する。ただし、審査結果が基準に満たないと判断した場合には、審査の結果「該当なし」とし、再度プロポーザルを行う場合がある。

また、あらかじめ定めた期間内に優先交渉権者との協議が調わない場合は、改めて次点者と協議を行うこととする。

1. プロポーザル評価の方法

提案価格及び提案内容を基に価格点並びに技術点を算出し、その合計点数をプロポーザル評価点数とし、最も高い者を優先交渉権者とする。

評価は、一次審査と二次審査に分けて実施し、一次審査では提案事業者のうち点数の高い順から2者を一次審査通過者とする。

二次審査では、上位2者によるプレゼンテーション、デモンストレーションによる得点を一次審査の得点に追加し、最も多い点数を獲得した事業者を優先交渉権者とする。

- (1) 一次審査では価格点に150点、技術点に350点を配分し、満点を500点とする。一次審査の技術点は提案書並びに機能・帳票一覧及び業務アプリケーション特記事項に対する提案を基に採点する。
- (2) 二次審査では価格点に150点、技術点に350点を配分し、満点を500点とする。二次審査の技術点は提案書を補足するプレゼンテーション並びに機能・帳票一覧への回答及び業務アプリケーション特記事項に対する提案を補足するデモンストレーションによる回答を基に採点する。
- (3) 一次審査と二次審査の得点を合計した1000点満点のうち、最も得点の高い者を優先交渉権者とする。
- (4) 一次審査の点数及び一次審査と二次審査の得点を合計した点数において、最も高い者が2人以上あるときは、当該者のくじ引きによって優先交渉権者を定める。

	価格点	技術点	満点
一次審査で付与する点数	150点	350点	500点
二次審査で付与する点数	150点	350点	500点
総得点	300点	700点	1000点

2. 価格点

価格点は、本調達の最低提案価格を提案価格で除して得た値に提案価格に対する得点配分を乗じて得た値とする。

価格点を算出する提案価格は、一次審査に事業者から提示される価格提案書を使用する。一次審査、二次審査ともに同じ得点となり、価格点の総得点の2分の1となるが、これは価格点と技術点の割合を3対7とする調達全体の点数配分を適用することを目的としている。

評価項目	配点
一次審査の価格点	150点
二次審査の価格点	150点
合計	300点

価格点の計算方法は一次審査、二次審査ともに以下の方法とする。

$$\text{価格点} = \left(\frac{\text{本調達の最低提案価格}}{\text{提案価格}} \right) \times 300 \text{点}$$

3. 技術点

技術点は、提案審査委員会評価(提案書評価)及び業務主管課による評価(機能・帳票一覧への対応、業務アプリケーション特記事項に対する提案評価)ごとに設定される加点の合計の値とする。

	提案審査委員会 評価点	業務主管課による 評価点	満点
一次審査で付与する点数	200 点	150 点	350点
二次審査で付与する点数	200 点	150 点	350点
総得点	400 点	300 点	700点

3.1. 一次審査の技術点

3.1.1. 提案審査委員会評価(提案書評価)

提案審査委員会評価は、仕様書及び要件定義書等の記載への対応について、各社の提案書に対して評価を行う。

- (1) 提案審査委員会評価は、「評価基準書別紙1 提案書評価項目一覧」の評価項目ごとに設定される加点の合計の値とする。
- (2) 「評価基準書別紙1 提案書評価項目一覧」の全てに提案がなされていることを前提とし、提案の記載がない若しくは不適な内容の場合には不合格とする。
- (3) 加点は、「評価基準書別紙1 提案書評価項目一覧」の各項目の配点に対し、下表に示す5段階の評価に応じた乗数を掛け合わせて算出し、最高で200点を与える。なお、各項目の加点の配分は当市が本システムに対して重視する項目について高い配点を付す等の配点割合を設けている。
- (4) 当市提案審査委員会メンバーによる「評価基準書別紙1 提案書評価項目一覧」の各項目に対する評価のうち、最高点と最低点をつけたものを除いた合計から平均を算出(平均の際には小数点以下を切り捨て)し、全ての提案依頼項目評価点を合計し、加点の合計点数とする。

提案審査委員会による提案書評価の採点基準

採点段階(評価段階)	乗数	採点の基準
極めて優秀な内容	100%	「優秀な内容」に加え、提案内容が当市にとって有効かつ妥当な内容であり、具体的な説明がなされている。
優秀な内容	75%	「標準的な内容」に加え、提案依頼項目に対して、十分な説明がある。
標準的な内容	50%	仕様書、要件定義書の記載事項のおうむ返しに終始し、対応の有無は確認できるが、独自の提案がない。
やや劣る内容	25%	提案依頼項目の回答として一部不明瞭又は記載がないものが含まれ、対応の有無の確認ができないものが含まれている。
最低限の内容	0%	内容に乏しく、提案内容として極めて不適切である。

3.2. 業務主管課による評価(機能・帳票一覧への対応、特記事項への提案評価)

業務主管課による評価は、機能・帳票一覧への対応、業務アプリケーション特記事項への対応について、採点基準により評価を行い、その合計を業務主管課による評価とする。

- (1) 機能・帳票要求への対応充足度及びシステム導入作業及び運用・保守業務内容の妥当性について評価する。
- (2) 機能・帳票要求への充足度は「調達仕様書別紙2機能一覧」及び「調達仕様書別紙3帳票一覧」への回答を使用し、要求する機能、帳票項目に対して対応可能な数により評価することとし、最高で50点を与える。導入作業区分毎に以下の計算式で充足度を採点する(マイナスの場合は0点とする)。
機能・帳票要求の回答区分は「調達仕様書別紙2機能一覧」記載の「機能一覧回答記載要領」及び「調達仕様書別紙3帳票一覧」記載の「帳票一覧回答記載要領」のとおり。

$$\text{機能・帳票要求への充足度評価} = \left(\frac{(\text{回答区分○の合計}) - (\text{□の合計} \times 0.3) - (\text{△の合計} \times 0.5) - (\text{×の合計})}{\text{作業区分の機能、帳票項目の総数}} \right) \times 50 \text{点} \div 3$$

- (3) 業務アプリケーション特記事項への提案評価は「評価基準書別紙2 業務主管課評価項目一覧」の項目に対する事業者からの提案内容により各業務主管課が採点を行う。
- (4) 「評価基準書別紙2 業務主管課評価項目一覧」の評価項目全てに提案がなされていることを前提とし、提案の記載がない若しくは不適な内容の場合には不合格とする。
- (5) 「評価基準書別紙2 業務主管課評価項目一覧」に対する加点は、システム導入作業及び運用・保守業務内容の妥当性評価の各項目の配点に対し、下表に示す5段階の評価に応じた乗数を掛け合わせて算出し、最高で100点を与える。なお、要求事項の各項目の加点の配分は当市が本システムに対して重視する項目について高い配点を付す等の配点割合を設けている。
- (6) 特記事項への提案評価は、業務主管課担当者の評価のうち、最高点と最低点をつけたものを除いた合計から平均を算出(平均の際には小数点以下を切り捨て)し、全ての業務主管課評価点とする。

業務主管課一次審査の配点

評価項目	配点
機能・帳票要求への充足度	50点
業務アプリケーション特記事項への対応 内容の妥当性評価 (「評価基準書別紙2 業務主管課評価項目一覧」による評価)	100点

業務アプリケーション特記事項に対する提案評価の採点基準

採点段階(評価段階)	乗数	採点の基準
極めて優秀な内容	100%	「優秀な内容」に加え、提案内容が当市にとって有効かつ妥当な内容であり、具体的な説明がなされている。
優秀な内容	75%	「標準的な内容」に加え、提案依頼項目に対して、十分な説明がある。
標準的な内容	50%	仕様書、要件定義書の記載事項のおうむ返しに終始し、対応の有無は確認できるが、独自の提案がない。
やや劣る内容	25%	提案依頼項目の回答として一部

		不明瞭又は記載がないものが含まれ、対応の有無の確認ができないものが含まれている。
最低限の内容	0%	内容に乏しく、提案内容として極めて不適切である。

3.3. 二次審査の技術点

3.3.1 提案審査委員会評価(提案書を補足するプレゼンテーションに対する評価)

提案審査委員会評価は、提案書を補足するプレゼンテーションにより、「評価基準書別紙1 提案書評価項目一覧」の項目の再評価を行う。

- (1) プレゼンテーション評価項目は「評価基準書別紙1 提案書評価項目一覧」とし、各項目に設定される加点の合計の値を二次審査の提案審査委員会評価の点数とする。
- (2) 「評価基準書別紙1 提案書評価項目一覧」(提案書を補足するプレゼンテーション評価項目)の全てに提案がなされていることを前提とし、プレゼンテーションによる説明がない若しくは不適な内容の場合には不合格とする。
- (3) 加点は、「評価基準書別紙1 提案書評価項目一覧」の各項目の配点に対し、下表に示す5段階の評価に応じた乗数を掛け合わせて算出し、最高で200点を与える。なお、要求事項の各項目の加点の配分は当市が本システムに対して重視する項目について高い配点を付す等の配点割合を設けている。
- (4) 当市提案審査委員会メンバーによる評価のうち、最高点と最低点をつけたものを除いた合計から平均を算出(平均の際には小数点以下を切り捨て)し、全ての提案依頼項目評価点を合計し、加点の合計点数とする。

提案審査委員会による提案書を補足するプレゼンテーションに対する評価の採点基準

採点段階(評価段階)	乗数	採点の基準
極めて優秀な内容	100%	「優秀な内容」に加え、提案内容が当市にとって有効かつ妥当な内容であり、具体的な説明がなされている。
優秀な内容	75%	「標準的な内容」に加え、提案依頼項目に対して、十分な説明がある。
標準的な内容	50%	仕様書、要件定義書の記載事項のおうむ返しに終始し、対応の有無は確認できるが、独自の提案がない。
やや劣る内容	25%	提案依頼項目の回答として一部不明瞭又は記載がないものが含まれ、対応の有無の確認ができないものが含まれている。
最低限の内容	0%	内容に乏しく、提案内容として極めて不適切である。

3.3.2. 業務主管課による評価(デモンストレーション評価)

業務主管課による評価は、機能・帳票一覧への対応、業務アプリケーション特記事項への対応について、デモンストレーションによりシステムの実際の動作やデザインを確認及び説明による再評価を行い、その合計を業務主管課による評価とする。

- (1) 機能・帳票要求への対応充足度及びシステム導入作業及び運用・保守業務内容の妥当性についてデモンストレーションに基づいた再評価を行う。
- (2) 機能・帳票要求への充足度は「調達仕様書別紙2機能一覧」及び「調達仕様書別紙3帳票一覧」への回答を使用し、要求する機能、帳票項目に対して対応可能な数により評価することとし、最高で50点を与える。導入作業区分毎に以下の計算式で充足度を採点する。

機能・帳票要求の回答区分は「調達仕様書別紙2機能一覧」記載の「機能一覧回答記載要領」及び「調達仕様書別紙3帳票一覧」記載の「帳票一覧回答記載要領」のとおり。

$$\text{機能・帳票要求への充足度評価} = \left(\frac{(\text{回答区分○の合計}) - (\text{□の合計} \times 0.3) - (\text{△の合計} \times 0.5) - (\text{×の合計})}{\text{作業区分の機能、帳票項目の総数}} \right) \times 50 \text{点} \div 3$$

- (3) 業務アプリケーション特記事項への提案評価は「評価基準書別紙2 業務主管課評価項目一覧」の項目に対する事業者からの提案内容により各業務主管課が採点を行う。
- (4) 「評価基準書別紙2 業務主管課評価項目一覧」の評価項目全てに提案がなされていることを前提とし、提案の記載がない若しくは不適な内容の場合には不合格とする。
- (5) 「評価基準書別紙2 業務主管課評価項目一覧」に対する加点は、システム導入作業及び運用・保守業務内容の妥当性評価の各項目の配点に対し、下表に示す5段階の評価に応じた乗数を掛け合わせて算出し、最高で100点を与える。なお、要求事項の各項目の加点の配分は当市が本システムに対して重視する項目について高い配点を付す等の配点割合を設けている。
- (6) 特記事項への提案評価は、業務主管課担当者の評価のうち、最高点と最低点をつけたものを除いた合計から平均を算出(平均の際には小数点以下を切り捨て)し、全ての業務主管課評価点とする。

業務主管課二次審査の配点

評価項目	配点
機能・帳票要求への充足度	50点
業務アプリケーション特記事項への対応内容の妥当性評価 (「評価基準書別紙2 業務主管課評価項目一覧」による評価)	100点

業務アプリケーション特記事項に対する提案評価の採点基準

採点段階(評価段階)	乗数	採点の基準
極めて優秀な内容	100%	「優秀な内容」に加え、提案内容が当市にとって有効かつ妥当な内容であり、具体的な説明がなされている。
優秀な内容	75%	「標準的な内容」に加え、提案依頼項目に対して、十分な説明がある。
標準的な内容	50%	仕様書、要件定義書の記載事項のおうむ返しに終始し、対応の有無は確認できるが、独自の提案がない。
やや劣る内容	25%	提案依頼項目の回答として一部

採点段階(評価段階)	乗数	採点の基準
		不明瞭又は記載がないものが含まれ、対応の有無の確認ができないものが含まれている。
最低限の内容	0%	内容に乏しく、提案内容として極めて不適切である。

4. 添付資料

- 【評価基準書別紙1】提案書評価項目一覧
- 【評価基準書別紙2】業務主管課評価項目一覧